



全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.14

CONTENTS

-
- P.2 ご挨拶
-
- P.3 加盟校一覧／2018年度取組概要
-
- P.4-6 2018年度前半期活動報告
(総会・JPFF設立10周年記念シンポジウム)
-
- P.7 2018年度後半期活動報告
-
- P.8 入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内
-



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】 創価大学

JPFの次の10年に向けて

創価大学 副学長・学士課程教育機構長
田中 亮平



平成29年度にJPFは10周年を迎えており、本年度は、次の10年に向けての出発の年です。また平成最後の年でもあり、節目を感じます。この時期に、創価大学は、代表幹事校を担うことになりました。

このような折、中央教育審議会が、平成30年11月26日に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」を取りまとめて公表しました。2040年とは、この平成最後の年に生まれた子供たちが大学を卒業する年です。この答申には、高等教育が目指すべき姿として、「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」への転換について述べられています。この転換は、これからの大学改革の指針になると考えられます。

その一方、経団連が「就職ルール」の廃止を表明し、今後、政府主導で新たな方式が策定されることになっています。個人的には、見通しは不透明だと感じています。それは、昨今の働き方改革や雇用慣行の見直しについての議論をみると、どちらかと言えば、大学生の就職については、通年採用の導入などの大きな変化が見込まれるからです。

このような大きな変化に対応しつつ、これまで以上の大学改革が求められるのは間違いなく、その変化に対応できた大学が今後も継続的な発展を遂げられるのでしょうか。

JPFは、大学が連携し、協力関係を築けている好事例の一つであり、今後も引き続き、高等教育の発展と各大学の大学改革に貢献できると考えています。JPFの加盟大学の学生数の合計は、私立大学の総学生数の約33%にもなると聞きます。このことから、重要な大学間連携事業であることがわかります。一つひとつの加盟大学をみても、FD推進の先導的な大学であり、連携による相乗効果は、計り知れません。

加盟大学のそれぞれが強みを生かし継続的に発展をとげるために、JPFがどのように貢献できるのかを常に念頭に置きながら代表幹事校としての勤めを果たしていきたいと期しております。



▶ 地域担当幹事校【西日本担当】 関西学院大学

大学間連携で教育力の向上を！

関西学院大学 高等教育推進センター長
豊原 法彦



関西学院大学は、2008年の発足時より加盟し、幹事校を務めてまいりました。そして2019年6月より代表幹事校を担う予定です。JPF発足10周年の記念シンポジウムを行った本年度、文部科学省が「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を示し、そこではこれからの高等教育改革の指針が、世界規模で激しい社会の変化が進む中、大学は教育・研究の本来の機能を発揮し、社会の発展を支え、推進させる基盤となるものであると明確に示されています。改めて、各大学の持つミッションを確認し、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、その成果を学修者自身も実感できる教育体制が各大学には必要となります。さらに、このような教育が実践されていることを確認できる成果の検証だけでなく、学修成果を把握・評価する仕組みを構築しなければなりません。そのためには教員個人や教員組織としての継続的な教育力向上が不可欠です。

本学も創立150周年を迎える2039年を見据えた関西学院大学のありたい姿・あるべき姿を示す「超長期ビジョン」と、それを実現するための前半10年間（2018-2027）の方向性

を示す「長期戦略」からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定しました。その中には、JPFの設立趣旨でもあるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進するための計画が示されています。

そういう状況がある中、全国規模で私立大学が地域の枠を越えて連携しているJPFは、本学にとっても、他大学のFD等の取り組み状況の情報収集だけでなく各大学が共通して抱えている課題を話し合う貴重な機会です。今後も各大学が他大学におけるFD等の取り組み事例や課題の共有を通じて新たな知見を獲得しながら、大学間の連携が深化させることで、高等教育全体が発展することを願っています。

加盟校一覧

代表幹事校	創価大学		
地域担当幹事校	創価大学【東日本担当】	関西学院大学【西日本担当】	
幹事校	関西大学	関西学院大学	慶應義塾大学
	國學院大學	創価大学	中央大学
	中部大学	同志社大学	法政大学
	明治大学	立教大学	立命館大学
	龍谷大学	早稲田大学	
会員校	愛知大学	青山学院大学	神奈川大学
	関東学院大学	北里大学	九州産業大学
	京都産業大学	甲南大学	神戸学院大学
	国土館大学	芝浦工業大学	専修大学
	中京大学	帝京大学	東京農業大学
	東北学院大学	東洋大学	南山大学
	日本大学	福岡大学	武庫川女子大学
	名城大学	明星大学	
事務局校	立命館大学		

50音順、全37大学（2019年3月現在）

2018年度 取組概要

2018年度 幹事会

日 時：2018年6月16日(土)12:00~13:00
会 場：同志社大学 今出川キャンパス良心館

2018年度 代表幹事校ミーティング

日 時：10月5日(金)13:00~15:00
会 場：関西学院大学 東京丸の内キャンパス

2018年度 総会・パネルディスカッション

日 時：2018年6月16日(土)13:00~17:00
会 場：同志社大学 今出川キャンパス良心館

◆設立10周年記念シンポジウム

テーマ：「これからの大学教育の役割
—社会が求める人材育成に向けて—」

◆基調講演

MBSメディアホールディングス代表取締役会長、
毎日放送取締役会長 河内 一友 氏

◆事例報告

芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授 井上 雅裕 氏
高知大学 大学教育創造センター副センター長 塩崎 俊彦 氏

◆パネルディスカッション

同志社大学 学習支援・教育開発センター所長 大島 佳代子
文部科学省高等教育局 視学官・大学改革官 佐藤 邦明 氏
芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授 井上 雅裕 氏
高知大学 大学教育創造センター副センター長 塩崎 俊彦 氏

2018年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：1月11日(金)13:00~14:00
会 場：立命館 東京キャンパス（関東会場）
立命館大学 大阪いばらきキャンパス（関西会場）

2018年度 懇談会企画

日 時：1月11日(金)14:00~16:30
会 場：立命館 東京キャンパス（関東会場）
立命館大学 大阪いばらきキャンパス（関西会場）
テーマ：私立大学等改革総合支援事業 調査項目に基づく、
各大学における特色ある取り組み

総会・JPFF設立10周年記念シンポジウムを振り返って

同志社大学

学習支援・教育開発センター所長 大島 佳代子



2018年度のJPFF総会ならびにJPFF設立10周年記念シンポジウムが2018年6月16日（土）、同志社大学・今出川校地良心館にて開催されました。

まず総会では、同志社大学 学習支援・教育開発センター所長 大島佳代子より、前半期活動・決算報告を行い、2018年度代表幹事校となる創価大学 教育・学習支援センターの望月雅光センター長より2018年度の活動方針とその概要、年間スケジュール、予算等について報告いただきました。今年度の総会においては、JPFFの事務局業務を外部委託すること、代表幹事校、地域幹事校および監査役を当番制とすることなどについて、審議の結果、承認されました。

総会に引き続き、JPFF設立10周年記念シンポジウムが開催されました。近年のグローバル化、少子高齢化、AIの加速度的発展などにより急速に社会が変化していく中、学生の成長を促していくために、どのような人材を社会が必要としているのかを敏感に受け止め、柔軟に対応していく教育の必要性について議論を深めたいとの趣旨から、シンポジウムのテーマを『これからの大学教育の役割—社会が求める人材育成に向けて—』としました。

各大学では、すでに教育指標による効果測定、学修成果の可視化、FD活動など、教育効果をあげていくための様々な取り組みが行われていますが、今一度、社会との接合点に着目し、これからの社会が求める人材の育成にどのように取り組んでいけばよいのかについて、基調講演、事例報告を通じて、各大学で考えていただく機会となりました。

同志社大学教育支援機構長の植木朝子副学長による会場

校挨拶の後、文部科学省高等教育局の佐藤邦明氏から来賓のご挨拶をいただき、MBSメディアホールディングス代表取締役会長 河内一友氏をお招きし「これからの大学に求める学生像—メディア・マスコミ業界のMBSの場合」と題し



た基調講演を行っていただきました。基調講演は、メディア・マスコミ業界を牽引されてきた河内氏のお立場から、大きく変化する社会において、どのような人物が求められているのか、それにあたりどのような大学教育が必要になってくるのかについて率直なお話をいただきました。



基調講演に続き、社会に目を向けた取り組みの事例として、芝浦工業大学の井上雅裕副学長から「社会が求める人材と教育プログラムー芝浦工業大学の取り組みー」をテーマにご報告いただきました。同大学が、社会に目を向け、どのような人材育成目標を設定し、どのような教育プログラムをもって学生の育成を行っているのか、FDをどのように展開してきたのか、また今後の展開をどのように考えているのかについて具体的な事例を交えながらお話をいただきました。

また、高知大学 大学教育創造センターの塩崎俊彦副センター長からは「質保証のための卒業生調査に向けて」と題してご報告をいただきました。同大学は、文部科学省の平成28年度大学教育再生加速プログラム (AP) 「テーマV 卒業時における質保証の取組の強化」に採択されています。このプログラムは、変化の激しい社会の中で、これからの時代を主体的に生きる力を育成するためには、高等学校、大学教育、大学入学選抜を一体的に改革する高大接続改革が必要であるという考えのもと、大学の人材養成機能の抜本的強化を図ることを目的とするものです。「テーマV」は、「大学教育の質保証」について、学修成果の可視化、IRに基づいた教育改革が取り組みの中心となっていますが、同大学の取り組みは、卒業段階でどれだけの力を身につけたのかを客観的に評価する仕組みや、それらを目に見える

形で社会に提示するための手法等を開発し、学生が身に付けた能力が卒業後にどのように評価されているのかを検証するものです。同大学が、学生の学びをいかにとらえ、育成を行い、さらに社会での活躍を検証しているのか、また今後さらにその検証をどのように活用するのかについてお話をいただきました。

以上の基調講演、事例報告を踏まえて、佐藤邦明氏にも加わっていただき「大学教育の市民権」という観点から、日本の大学が社会から評価されているか、大学教育の価値は認識されているかについてパネルディスカッションが行われました。急速に変化する社会から信頼を獲得するために教育改革を進めている参加者の皆様にとって、社会が求める人材の育成を担う大学の役割について、再考する機会となったと思います。

また、パネルディスカッション後の懇親会には、パネリストの先生方、また、遠方からお越しになった方々にご参加いただき、にぎやかで会話が絶えない情報交換の場となりました。

JPPFは創立10周年を迎え、現在その輪は37の大学で結ばれております。次代へと社会を維持し発展させていくために、どのような人物を育成していくのか、社会からの要求を無条件で受け入れるということではなく、大学自ら考



え、具体的な方策を生み出していかなければならない状況で、JPFFはお互いの情報を共有できる貴重な繋がりとなっているのではないのでしょうか。



今後も、JPFFでの活動が各大学の財産となり、私立大学の存在をより一層際立たせるものとなることを心より期待しております。



シンポジウム次第

◆会場校挨拶

植木 朝子（同志社大学副学長、教育支援機構長）

◆開催挨拶

佐藤 邦明 氏（文部科学省高等教育局 視学官・大学改革官）

◆基調講演

河内 一友 氏（MBSメディアホールディングス代表取締役会長、毎日放送取締役会長）

◆事例報告①

テーマ：「社会が求める人材と教育プログラム—芝浦工業大学の取り組み—」

井上 雅裕 氏（芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授）

◆事例報告②

テーマ：「質保証のための卒業生調査に向けて」

塩崎 俊彦 氏（高知大学 大学教育創造センター副センター長）

◆パネルディスカッション

コーディネーター：大島佳代子（同志社大学 学習支援・教育開発センター所長）

パネラー：佐藤 邦明 氏（文部科学省高等教育局 視学官・大学改革官）
井上 雅裕 氏（芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授）
塩崎 俊彦 氏（高知大学 大学教育創造センター副センター長）

◆閉会挨拶

田中 亮平（創価大学 副学長、学士課程教育機構長）

2018年度後半期活動報告（懇談会企画報告）

2018年度懇談会企画 開催

JPFF代表幹事校・地域担当幹事校（創価大学・関西学院大学）

2019年1月11日（金）、JPFF加盟校による第8回懇談会が開催されました。関東会場、関西会場の2会場で開催された懇談会では、両会場あわせて50名を超える方に参加いただきました。この懇談会は各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としており、毎回、事前にディスカッションテーマを決め、テーマに関する各大学における課題やグッド・プラクティスを共有しています。今回は、私立大学等改革総合支援事業の調査項目の中でも、特にタイプ1「教育の質的転換」に関わるテーマをピックアップし、東西それぞれで4グループずつ、計8グループでのグループ別ディスカッションを行いました。私立大学にとって関心の高いテーマだけに、どのグループでも各大学での現状や今後の課題等について非常に活発な議論が行われました。グループ別ディスカッションの後には、東西の会場をテレビ会議システムで接続し、各グループで出された意見を報告し合い、情報共有を図りました。

【実施概要】

日 時：2019年1月11日（金）14：00～16：30

会 場：関東会場 立命館大学 東京キャンパス

関西会場 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

（※テレビ会議で接続）

【テーマ】

・平成30年度 私立大学等改革総合支援事業
タイプ1「教育の質的転換」他

関東	
グループ1	3ポリシーとアセスメントポリシー関連： 3つのポリシーを踏まえた点検・評価、IR機能強化、学長裁量経費、卒業時アンケート、卒業後アンケート
グループ2	授業改善及びICT活用： 事前事後学修を促す授業、アクティブ・ラーニング、ICT活用、履修系統図・ナンバリング、GPA、学修成果等の活用、カリキュラム編成にかかる教職員
グループ3	授業改善及びICT活用： 事前事後学修を促す授業、アクティブ・ラーニング、ICT活用、履修系統図・ナンバリング、GPA、学修成果等の活用、カリキュラム編成にかかる教職員
グループ4	FD・SDに関する取組： ティーチング・ポートフォリオ、FD組織設置と実施、授業改善を図る制度的取組、成績評価についてのFD、シラバス作成方法についてのFD、SDの実施、教育サポートスタッフの研修

関西	
グループ1	3ポリシーとアセスメントポリシー関連：
グループ2	3つのポリシーを踏まえた点検・評価、IR機能強化、卒業時アンケート、履修系統図・ナンバリング、学修成果等の活用、成績評価についてのFD
グループ3	
グループ4	授業改善及びICT活用： 事前事後学修を促す授業、ICT活用、FD組織設置と実施、授業改善を図る制度的取組

【懇談会のまとめ】

今回も昨年に引き続き、多くの方にご参加いただき、有意義な懇談会企画を実施することができました。今回は例年よりグループディスカッションの時間を長く取りましたが、それでも時間が不足するくらい、それぞれのグループで自由闊達な意見交換が行われました。個々のグループでは左記のテーマに沿って、大学ごとに特色のあるグッド・プラクティスを紹介したり、どの大学にも共通する課題を共有したりと非常に有益な議論になりました。

どのグループでも共感の声や大学を超えた改善の提案などがあり、参加者からも今後の自学の取組に生かしていきたいとの声がありました。グループディスカッションのあとは、東西会場全体での情報共有を行い、各グループの代表からディスカッションの内容について報告がありました。多岐にわたるテーマでしたが、「全学的なIRの推進について学内の理解を得るにはどうすればよいか」、「現在は教学IRが主体となっているが、経営的な視点も取り入れるべき」、「3ポリシーはその策定よりも、内容と教育成果との関係性を評価することが重要になる」といった意見や、「SNSを活用した授業外学習時間の記録」、「学部のFD推進に専用の予算をつける」などの特色のある取組も紹介されました。さらに、「大学の建学の精神と学部の人材育成方針との関連性」、「第3期認証評価に向けて」といったテーマでも貴重な意見交換がされました。

最後に、代表幹事校である創価大学の望月教育・学習支援センター長からは、「『なんのため』というキーワードが重要であり、学生は、なんのために学ぶのかを意識することで、卒業後のキャリアやその先の将来を見据えた形で大学時代の学びを意識していける。そのためには教員の側もなんのために教えるのかを意識していくことが大切であると感じます。今回の懇談会のように各大学の知恵を結集することで、お互いに非常に勉強になるだけでなく、大学業界の発展にもつながっていくと思います」とのあいさつがありました。

幹事校・会員校ミーティング

1. 加盟校代表者の見直しについて

加盟校の代表者について、今後は、JPFFの活動に定期的に参加する、実質的な活動推進者を登録することについて承認を得た。

2. 2019年度 総会・シンポジウム 開催日程について

2019年度の全国私立大学FD連携フォーラム 総会・シンポジウムについては、2019年6月29日（土）に、創価大学で開催することについて承認を得た。

3. 2019年度 実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用について

オンデマンド講義サービスを利用する場合の申込について、従来どおり、利用希望のあった教員のみアカウントを発行すること、また、申請にあたってはE-mailのみの受付となること、申込期間を上半期は2月1日～4月30日、下半期は9月1日～9月30日に限定することについて承認を得た。

4. 新規加盟校の申請について

上智大学よりあった入会申請について承認を得た。



入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。
(年会費:5万円(2019年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

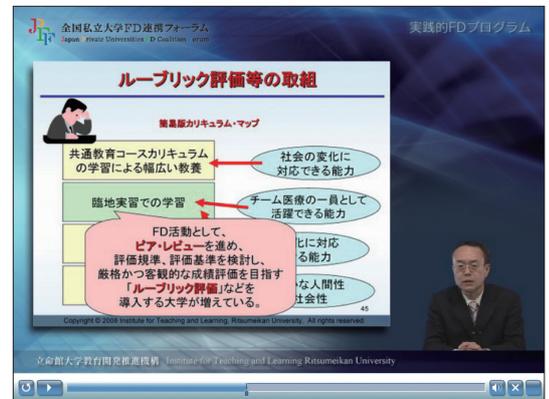
各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

JPFJ会員校

http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

JPFJ非会員校

<http://www.ritsumei.ac.jp/itl/VOD/>



利用申込について

利用期間は最長1年間(当該年度内)となります。【上半期受付期間】2月1日～4月30日 【下半期受付期間】9月1日～9月30日
上記のウェブサイトより「利用申込書」をダウンロードし、事務局へお送り下さい。

事務局校

立命館大学

(事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教務課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8310 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp